

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・9〉	いわき市立 中央台南	小学校
＜実施日＞	平成 28年	6月	8日(水)
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()		
＜実践内容＞	単元名「放射線から身を守るには」(1/1) 場所: コンピュータ室 ねらい: 放射線から身を守る方法を理解することができる。		
学習活動・内容	時間	○指導上の留意点	評価
1 前年度までの学習を振り返る。 ・ 放射線と放射能の違い	7	○ 放射線とは何かを児童に簡潔に伝え、前年度までの学習を想起させる。 ○ 自然の中にも放射線は存在すること、どのような時が危険なのかということについて、考えさせ、気付かせたい。	
2 本時のめあてを知る。 放射線から身を守るにはどうすればよいだろうか。	3	○ 放射線が人間に与える影響について資料をもとに簡潔に伝える。	
3 各自パソコンで調べる。 ・ 様々なサイトから調べて、ノートにまとめていく。 ・ 効果的なサイトは友達に紹介する。	20	○ 担任からおすすめのサイトをいくつか紹介し、調べ学習が効率よくできるようにする。 ・ 文科省「小学生のための副読本図表集N0.5」 http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2014/03/17/1345151_05.pdf ・ 環境科学技術研究所「放射線のはなし」 http://www.ies.or.jp/ri_online/index.html	
4 調べたことを発表する。 ・ 時間 ・ 距離 ・ 遮蔽 ・	10	○ 「学習のまとめ」を意識しながら、児童の意見を、「時間」「距離」「遮蔽」にグループ分けしていく。 放射線から身を守るにはどうすればよいか、理解することができる。(ノート・発表)	
5 学習のまとめをする。 放射線から身を守るには、時間・距離・遮へいという3つのキーワードを思い浮かべて行動することが大切である。	5	○ 児童からたくさんの意見や考えが出たことを賞賛する。 ＜参考図書＞ 「放射線放射能の問題」学研教育出版 2013	
＜成果＞	○ 資料は紙媒体を使わずスライドで見せたので、児童の興味、関心が高まった。 ○ 「スマートフォンで情報を得る。」など多様な考えが出たり、互いの調べ活動の内容を伝え合おうとしたりするなど、学習活動がより深まった。 ○ 放射線とは何かということを導入で確認したことで、何を調べればよいか迷うことなく、児童一人一人がスムーズに調べ学習を進めることができた。 ○ まとめを「時間・距離・遮へい」の3つの言葉で端的に表したことで、児童が理解しやすかったと思われる。授業後、数日経ってからも、3つのキーワードを話題に出す児童が多かった。		
＜課題＞	● 身を守る方法を調べる際、人間の行動について調べる他に、環境について調べる児童が数名いた。本時では、人間の行動について焦点化させるべきであった。 ● 児童が目にする内容が本当に正しいのか、情報選択する力も育てる必要がある。 ● 今回の授業では、児童が調べ、発表するだけにとどまってしまった。教師として、児童が放射線から身を守るために大切なことを、もっとしっかり指導すべきだった。		
資料作成担当者職(教諭)氏名	(中西 龍也)	学校電話番号	(31-1020)

【 資料作成上の注意 】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日（月）までに電子メールで送信してください。
（送信先：kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp）